

# 高木聖鶴“書”人生

- 大正12年 7月12日、岡山県総社市生まれ。  
本名：郁太（いくた）
- 昭和15年 旧制高梁中学を中退。独学で書を始める。
- 昭和22年 書家の内田鶴雲氏に師事。
- 昭和25年 第六回日展で初入選。
- 昭和53年 朝陽書道会会長に就任。
- 昭和56年 日展審査員（以後7回）
- 昭和60年 山陽新聞賞（文化功労）を受賞。
- 昭和62年 岡山県書道連盟会長に就任。
- 平成2年 社団法人日展評議員。
- 平成4年 三木記念賞を受賞。
- 平成5年 岡山県文化賞を受賞。
- 平成10年 勲四等旭日小綬章を受章。
- 平成16年 総社市名誉市民に。
- 平成18年 文化功労者。
- 平成25年 岡山県内在住者として初めて文化勲章受章。
- 平成29年 2月24日、93歳で死去。

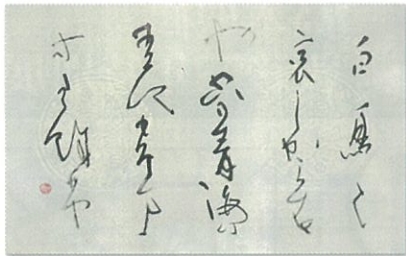


## ■岡山県内在住者として初めて文化勲章受章

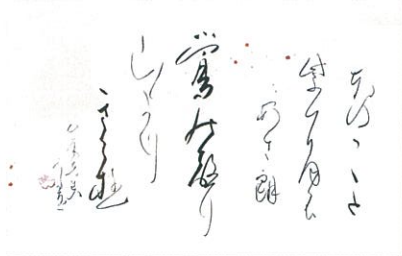


中央／高木聖鶴

## ■吉備路ゆかりの文学者作品



若山牧水



清水比庵

## ■高木聖鶴コレクション（墨、硯、印材の逸品）



明墨 百子図



宋端溪雲龍硯



宋端溪葡萄硯



印材（田黄）

令和元年12月8日<日>～  
令和2年2月24日<月・振休>

# 高木聖鶴没後三年特別展

## 岡山の書家（二門）

— 書は私のすべて —

吉備路文学館  
KIBIJI LITERARY MUSEUM

「書の道」への“ことば”

「はたから見れば、天分があつて書の道に進んだように思われるかもしれませんが、私は自分が足らん、足らんと思つてきました。自信がないから、自信を得るために一生懸命、書一筋に専心したのです。」

「自分が理想とする、やっと三分の一のところに来たぐらいかな。二百年生きないと、自分の思つたような字で作品が残せない。これが偽らざる心境です。」

「高木聖鶴先生 お別れの会」高木聖雨氏 謝辞より

併催：企画展「文学賞になった吉備路の作家たち」

内田百閒、坪田譲治、木山捷平、永瀬清子 ほか